

令和5年度 学校評価計画（教育指導の重点）

小田原市立（国府津小）学校

項目	共通項目 (教育指導の重点より)	学校における取り組み	
		学校の実践目標	具体的方策
「学ぶ力」	日々の学習指導や学習評価の工夫・改善（「指導と評価の一体化」）に努めます。	・「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業づくりと豊かな学び合いによる思考活動の充実により、主体的に学びに向かう力と課題解決力を育む。 ・基礎的・基本的な知識・技能の着実な定着を図る。	・児童の変容の見取りを多面的に行い、児童相互の学び合いの中に位置付けることにより、深い学びへとつながるような実践を行うとともに、行内研究を通して、その検証を図る。 ・個別指導、個別支援の場を取り入れ、個の実態に応じた指導・支援を行う。
「豊かな心」	教育活動全体を通じて、生命の尊さや人権を尊重する態度の育成を目指した、人権教育を推進します。	・互いの良さを認め、自他の生命や人権を大切にできる心を育む。	・月の生活目標を共有しつつ、各学年・学級に応じた具体策を設け、生命尊重や人権尊重を意識し続けられるような環境をつくる。 ・インクルーシブ朝会や人権朝会を実施し、全校の共通理解のもと、人権意識の啓発を図る。 ・たてわり班を活用し、異学年交流を通して思いやりの心を育む。
「健やかな体」	防災・防犯・交通安全・熱中症防止・感染症対策等、子どもの命・安全を守ることを最優先にした対応に取り組めます。	・「自分の命は自分で守る」を意識できるような指導を継続する。	・様々なシチュエーションでの防災訓練や防犯教室、交通安全教室を実施し、自分の頭で考え、行動できるような児童を育てる。 ・防災研修、防犯研修、アレルギー対応研修の充実を図り、教職員の安全意識を高める。 ・感染症対策に係る最新情報や学校事故に係る事例の収集に努め、職員への周知を図る。
「関わる力」	小田原の自然や産業、伝統文化に関心を持ち、社会に主体的に参画しようとする態度の育成を目指します。	・地域学習の充実を図り、地域人材の活用を図る。	・社会科・生活科・総合的な学習の時間における地域学習の充実を図るため、地域素材の教材化を意識して、これまでの単元の見直しを行う。 ・スクールボランティアの活用を図るとともに、児童と地域の方との関わりの場を充実させる。
その他	※必要に応じて追記してください。	・様々なことに主体的に取り組もうとする態度の育成を図る。	・各教科、各領域（総合的な学習の時間や特別活動を含む）において、主体的に取り組みたくなるような学習問題・学習活動を設定する。 ・代表委員会やたてわり班活動を含めた児童会活動を充実させ、自分たちの考えや力でつくり上げたり、成し遂げたりしたと実感できるような場を作る。

令和5年度 学校評価報告（教育指導の重点）

小田原市立（ 国府津小 ）学校

項目	共通項目 (教育指導の重点より)	評 価	改 善 策
「 学び力 」	日々の学習指導や学習評価の工夫・改善（「指導と評価の一体化」）に努めます。	・校内研究では、児童の見取り方を共有することで、指導と評価の一体化を試みた。児童の姿をもとに協議を行うことはできたが、「学び合いを通して思考が深まったと言えるか」ということについての検証は改善の余地がある。 ・個別指導、個別支援の場を年度当初より組織的に取り入れることで、その子のニーズに応じた指導・支援ができつつある。	・「主体的・対話的で深い学び」の原点に戻り、「主体的」とは、「対話的」とは、「深い学び」とは、それぞれどのような学びを指しているのか共通理解を図りつつ、どのような手立てをとることで児童の変容を見取ることができるのかを校内研究で追究する。 ・個別指導、個別支援のニーズをきちんと把握した上で、そのニーズにできるだけ対応できるようなシステムの改善を図る。
「 豊かな心 」	教育活動全体を通じて、生命の尊さや人権を尊重する態度の育成を目指した、人権教育を推進します。	・月の生活目標に基づいて、各学級、具体的に手立てを考え実践を図り、その成果等を全校放送等で報告する場を設けることができた。 ・インクルーシブ朝会や人権朝会を実施できた。朝会後の児童の声から、各学年、発達段階に応じた人権意識の向上をうかがうことができた。 ・毎月のたてわり班遊びや、たてわり班を中心とした児童会行事を通して、異学年間の思いやりの心を育むことができた。	・次年度からは、代表委員会等を通して、児童自ら、月の生活目標を設定するようにし、主体的に取り組めるようにしていく。 ・さらに早い段階からインクルーシブ朝会を開催し、「一人一人みんな違っていい」という意識をもたせていく。 ・たてわり班活動については、継続しつつ、充実したものへと発展させていく。
「 健やかな体 」	防災・防犯・交通安全・熱中症防止・感染症対策等、子どもの命・安全を守ることを最優先にした対応に取り組めます。	・様々なシチュエーションでの防災訓練や防犯教室、交通安全教室を実施することができた。予告なしの避難訓練や実際の地震発生時の様子から、自分の頭で考え、行動できるような児童が育っている。 ・防災研修、防犯研修、アレルギー対応研修を実施することで、教職員の安全意識を高めることができた。 ・WBGTの値をもとに、休み時間等の対応を図ることができた。	・引き続き、警察等の協力を得ながら、様々なシチュエーションでの防災訓練や防犯訓練、交通安全教室を実施し、自分の頭で考え、行動できるような児童を育てる。 ・防災研修、防犯研修、アレルギー対応研修等も継続し、教職員の安全意識を高める。
「 関わる力 」	小田原の自然や産業、伝統文化に関心をもち、社会に主体的に参画しようとする態度の育成を目指します。	・社会科・生活科・総合的な学習の時間において、地域素材を扱い、地域に出向き、地域の方と交流する活動が増えている。4年生の総合では、バリアフリーの視点から見て不十分なところを、直接市の担当者に訴え、改善につなげるような姿も見られた。 ・1年生の昔遊び、2年生の町探検、5年生の米作りなどをはじめ、児童と地域の方の関わりが多く設定された。	・地域素材の教材化について、担任が変わっても実践できるように年間指導計画にきちんと位置付け、大まかな単元の流れも明示できるようにする。 ・スクールボランティア活用の可能性を探りながら、こちらも年間指導計画に位置付けていくことで、毎年、見通しをもってスムーズに活用できるようにする。
その他	※必要に応じて追記してください。	・代表委員会やたてわり班活動を含めた児童会活動を充実させることで、自分たちの考えや力でつくり上げたり成し遂げたりしたと実感できるような場を作ることができた。学校運営協議会で6年生が1年間の振り返りを発表する際の児童の言葉からも、そのことがうかがえる。	・各教科、各領域（総合的な学習の時間や特別活動を含む）において、主体的に取り組みたくするような学習問題・学習活動を設定する。 ・自分たちで課題や議題を見だし、話し合いを通して、解決・実践につなげられるような学級活動の在り方を考える。